

主張

教職員の育成

楠見 健



「やってみなはれ」「こけたら立ちなはれ」

小学校を中退し、大阪へ丁稚奉公に出て以降、松下電気器具製作所からパナソニックに至るまでを一代で築き上げた松下幸之助氏は、和歌山県和佐村（現在は和歌山市）で生まれた。今、そこには松下公園と呼ばれる公園がある。私の母の実家がその近くにあるため、よくその公園に連れて行ってもらった。氏は、経営の神様とも呼ばれ、多くの名言を残しているが、冒頭の言葉もその中のものである。また、次も有名ではないだろうか。

「松下電器は何をつくるところかと尋ねられたら、松下電器は人をつくるところです。あわせて電気器具もつくっております。こうお答えしなさい。」

「『事業は人なり』という。人間として成長しない人をもつ事業は成功するものではない。事業にはまず人材の育成が肝要だ。」

生徒と関わり、成長を促すのが教職員の役割であり、教職員の育成なくして学校教育の充実はない。その時々に応じた研修を行うことはもちろんだが、仕事を通して、また、仕事以外での様々な経験や活動を通して人間的に成長した結果が、生徒への指導に反映され



ていくことを忘れてはならない。

教職員は、生徒を大切に思う心をもっているし、その成長のために力を尽くそうとする。しかし、仕事と子育て・介護などとの両立が困難になったり、肉体的・精神的な負担が大きくなってしまったりして、職を離れていく者もある。希望に胸膨らませて教員になった者や、経験を重ねて力を付けてきた者を失うのはつらい。働き方改革が進むよう強く願うとともに、職場の環境や条件を整えたいと思う。

また、教職員は、それぞれに優れた能力や特徴をもっている。そして、それぞれに願いやアイデアをもっている。各自が良さや特徴を發揮できるチーム、互いが刺激し、支え合うチームを作ることが肝心だ。そして、信頼して仕事を任せ、「やってみよう、大丈夫」と背中を押すことが、校長の役目だと思う。

「どのような先生になりたいですか?」と、教員採用面接で尋ねられた。

よくある質問だが、私は答えを用意しておらず、「あんな人になりたいと生徒から思われる先生になりたいです」と言った。

「模範にしたい校長はいますか?」と、管理職候補者選考試験で尋ねられた。

やはり回答を準備していなかった私は、「それぞれに素晴らしさがあるので、誰か一人を選ぶことは難しいですが、やってみたらいいと言ってくださった先生、役割を与えてくださった先生、陰で責任を負ってくださった先生が、頭に浮かびます」と答えた。

このようにして人は成長する、いや、成長させてもらうのだと、改めて思う。

(全日中副会長・和歌山市立城東中学校長)